



現場から（最近のニュースから）

私の役割は



『NHK スペシャル』の大型ドキュメンタリー番組特別企画で 2017 年から始まった「人体」のシリーズ最終章として 2025 年に放送された「人体Ⅲ」は「命とはなにか」をテーマにした番組でした。その番組が書籍化されたという記事とともに、内容の一部が紹介されていました。元々の番組がとてつもなく大きなテーマなので、書籍の内容も簡単にまとめることはできませんが、ほんの一部分だけ抜粋します。

科学者が「命とは何か？」という問いに向き合い、その特徴を定義づけようとしてきて、学術的に広く受け入れられているのは「①外界と隔てられている②代謝を行う③自己複製する、この 3 つすべてを満たすものを生命と呼ぶ」という考え方だそうです。そして、その最小単位を考えていくと、それは「細胞」に行き着くということです。そして、私たち人間の場合で見ると、私たちの体は、成人であればおよそ 40 兆個の細胞が集まってできていると言われるのですが、そのひとつひとつが生きているということになるそうです。東京大学で「1 分子遺伝学」をテーマに研究している上村想太郎教授は、「私たちを形作る細胞にも、私たちと同じように多様な個性がある」と言われているそうです。同じ種類の細胞でも、100 個集めて観察すると、その働き方に意外なほどの違いがあるということです。その証拠として、実際に、同じ種類の免疫細胞がたくさん集まっているところに、「敵が来た！」というシグナルをいっせいに与える様子を顕微鏡映像で見たそうです。すると……すぐに反応する細胞もあれば、のんびりと遅れて反応する細胞、なかには「われ関せず」でまったく無反応なものまであったということです。上村教授は、そのように一般的ではない反応をする個性的な細胞を観察・分析することによって、病気の治療や薬剤開発につなげることを目指しているということでした。細胞がそれぞれ役割があって、司令官の役割をしている細胞、兵隊のような役割をする細胞があることがわかってきているそうです。そして、司令官の役割をしている細胞は、数が少なかったため、今まで「はずれ」として扱われてきたのですが、その細胞に重要な役割があるはずだと研究しているということでした。その他、細胞の世界には、いままで考えられなかった不可思議なことがあると、記事は書いてありました。（1 月 19 日現代αオンライン＜なぜ、命の最小単位の、ひとつひとつの細胞に個性が!? およそ 40 兆個の細胞を調べたら驚きの連続だった＞より）

40 兆個の細胞にも個性があって、それぞれ役割があるということが研究によって分かってきたということです。その細胞が一つになって、私たち一人一人を作りあげているのですから、一人一人に個性があるのは当然です。社会では「こういう人だ」「こういうタイプだ」などと言って、人を分類して型にはめようとしています。それでは没個性になるからと、最近は個性の尊重ということを言われ、違いがあっても当然だと受け入れることが良いと言われます。しかし、良く調べてみると型にはめても、個性を尊重しても、「私が正しい」と思うことが基準としてあります。細胞一つ一つには意志がなく、その役割を果たしているだけなのですが、人間は、どうしても自分の意志と考えが中心になります。それが悪いと、別の正しいことを主張するのではなく、ほんとうの基準は人間からは出ないことを知る必要があります。そして、自分が正しいと思うことから抜け出して、自分がどんな存在なのかを知って自分の役割を果たしていくことが、自分らしく生きていくことになるでしょう。どうしたら、自分の役割が分かって自分らしく生きることができるのでしょうか。それについて、いっしょに見てみませんか。



救いの道

だれでも幸せになって、うまくいきたいのに、なぜ人生がこんなにも苦しくてつらいのでしょうか。

予期せぬ事故にあい、やることなすこと、すべてうまくいかず、会社ではやりがいどころか、仕事と人に疲れるばかりです。学校は、もはやいじめの天国になりつつあります。家庭内は冷たい風が吹き、一つ屋根の下でばらばらになり、実際に崩壊しているところも少なくありません。そのうち体は病気になる、心も病んでしまい、眠れない夜が続きます。お酒や薬に頼り、ギャンブルや快楽に走ってみても答えはありません。わらにもすがる思いで占いをし、おふだやお守りをつけてみますが、解けそうにもなく、どんどんひどくなるだけです。

ときには、表では他人がうらやむほどの成功をおさめたのに、裏は穴が開いてもれていくし、隠れた問題でなげき、ため息をつきながら人生のむなしさを感じています。胸にはぽっかりと穴が開いて、埋められません。とても憂うつになって、時々、自殺の衝動にかられます。幻聴や幻覚に悩まされるときもあります。

なぜこうなったのでしょうか。



それは、人が神様を離れているからです。魚が水を離れ、木は土から根を放り出すと枯れて苦しみ死んでいきます。人は神様に会って神様とともにいるべきたましいを持つ存在です(創世記1:27)。ですから、神様と出会う時、すべての問題が解決され、新しい人生が始まります。しかし、人は罪を犯して神様を離れてしまい、二度と神様に会うことができなくなりました。そのときから、目には見えない暗やみの力が、人を運命の力に閉じ込めて、苦しめて滅ぼしているのです。それで、どんなに暴れても抜け出すことができません。どんどん疲れはてて倒れるだけなのです。



神様は苦しみの中にいる人を愛し、この運命の泥沼から抜け出して、神様に会うことができる道を開いてくださいました。その道がイエス・キリストです。イエス・キリストが罪人の私たちの身代わりとなって、十字架を背負い、すべての罪を赦してください(ローマ5:8)、私たちを苦しめていた暗やみと呪いの勢力を完全に打ち砕いて勝利なさいました(1ヨハネ3:8)。そして言われます。「わたしは道であり真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれ一人として神に会うことはできません」(ヨハネ14:6)イエス・キリストは神様に会う道となりました。「疲れて重荷を負っている人はわたしのところへ来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます」(マタイ11:28)と私たちを招いておられます。



もうこれ以上、苦しみの人生にとどまっている理由はありません。道であるイエス・キリストを信じることで、神様に会うことができます。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです」「この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった」だれでもイエス・キリストを救い主として信じ、心に迎え入れれば救われます。下の「受け入れのお祈り」を通してイエス・キリストを心に迎えることができます。

「愛の神様、神様の驚くべき愛と、救いの計画を感謝します。今、私は罪人であることを認めて、悔い改めます。私の心の扉を開いて、今、イエス・キリストを私の救い主、私の神様として受け入れます。私の罪を赦してください、私を救ってくださったことを感謝いたします。これからは、神様のみこころに従って生きる者にしてください。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン」